

2020年度 施策評価シート(2019年度実績)

1 評価施策名	担当部課室 環境文化部 文化振興課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	生きがい・元気づくり支援プログラム
施策名	【重点】文化とスポーツの力を活用した地域の活性化

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	○「普段の生活の中で、芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっている」と感じている人の割合	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	36.0	37.0	38.0	38.0
現況値	29.1% (2015年度)	実績値	30.6	28.8	40.4	
目標値	38.0%	達成率	85%	77.8%	106.3%	
備考	県民満足度調査において、「満足」「やや満足」と回答した者の割合	達成度	3	2	4	

3 事務事業評価

事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
環境文化部 文化振興課 芸術文化育成・支援事業	実施目的 文化芸術による地域の活性化を図るため、岡山県にゆかりのある芸術家に作品発表の場を提供するとともに若手・新人作家に対して活動・発表の場を提供し、創作活動を支援することで次代を担う芸術家を育成し、加えて県民に対して優れた芸術に触れる機会を提供する。	4
	成果・課題 企画公募により、次世代を担う岡山県ゆかりの美術作家と若手・新人作家を組み合わせ、その活動・発表の機会を設けて創作活動を支援するとともに、地域で優れた芸術に触れる機会を提供し、文化芸術による地域の活性化に貢献した。引き続き、実施可能な施設や意欲のある美術作家・芸術家の発掘に努める。	

事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
環境文化部 文化振興課 アートで地域づくり実践講座事業	実施目的 地域にある文化素材等を生かした集客力のあるアートイベントの企画やコーディネートができるキーパーソンを育成することによって、県内各地で文化芸術を活用した地域の魅力発見、イメージアップとにぎわい創出の促進を図る。	4
	成果・課題 アートイベントを開催するための企画力・コーディネート力の養成を目的として、座学及び実践のアートイベントを実施する講座を実施した。また、受講を終了したキーパーソンによる自主的なアートイベントが開催されるなど、キーパーソンの活動が県内各地に広がっている。	

事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
環境文化部 文化振興課 美作三湯芸術温度	実施目的 岡山県の文化の魅力と「元気な岡山」を国内外へアピールするため、美作三湯を舞台にアートイベント「美作三湯芸術温度」を実施する。	4
	成果・課題 美作三湯を舞台にアートイベント「美作三湯芸術温度」を実施し、岡山県の文化の魅力と「元気な岡山」を国内外へアピールした。また、継続的に鑑賞できる作品もあり、文化を活用した地域の魅力の創出に繋がった。引き続き県内外に発信をしていく必要がある。	

事務事業名		事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
環境文化部 文化振興課	オーケストラの鑑賞機会の提供	実施目的 オーケストラの演奏を聴く機会が少ない地域での鑑賞機会を提供する。	4
		成果・課題 岡山フィルハーモニック管弦楽団により、2月に県北（津山市）でフルオーケストラによる特別公演を行った。会場（ベルファール津山）が満席（600人）となった上、来場者のアンケート等でも9割以上の方から高評価を得た。 終了予定である2020年度の後の事業実施等について事業効果等を検討する必要がある。	

事務事業名		事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
環境文化部 スポーツ振興課	トップクラブチームサポーター拡大事業	実施目的 ・スポーツに取り組む人たちが各トップクラブチームのサポーターの拡大を図る。 ・スポーツを通じて県民の一体感、地域の活性化を高めるとともに、岡山の名を情報発信する。	3
		成果・課題 トップクラブチームの試合を活用した「県民応援デー」では、各種イベントで会場は盛り上がり、来場者アンケートによると回答者の約9割が、「県民応援デーを積極的に行うべき」と回答するなど、県民の一体感、地域の活性化を高めるうえで、一定の効果につながった。	

平均	3.8
----	-----

4 施策達成レベル

4.0	生き活き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

美作三湯を舞台としたアートイベントの展開やオーケストラの鑑賞機会の提供により、地域の賑わい創出を図るとともに、次世代を担う若手芸術家やアートマネジメント力のある人材を育成し、文化を核とした地域の活性化を推進した。トップクラブチームの試合を活用した「県民応援デー」において、各種イベントを実施し、スポーツを通じて県民の一体感を高め、地域の活性化を推進することができた。

6 今後の施策推進に向けての課題

次世代を担う若手芸術家の育成はもとより、活躍の場となる施設や意欲のある芸術家等の発掘に努めるとともに、効果的な文化情報の発信や市町村、関係団体、地域住民等との連携をさらに進めていく必要がある。また、スポーツに関しては、事業の成果を高めるため、引き続き魅力あるイベントを実施し、スポーツに関わる人材の更なる増加を図る必要がある。

2020年度 施策評価シート(2019年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	環境文化部 スポーツ振興課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	生きがい・元気づくり支援プログラム		
施策名	【重点】生涯にわたってスポーツに親しめる環境づくりの推進		

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	○成人男女の1週間に1日以上運動・スポーツをする割合	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	50.0	50.5	51.0	52.0
現況値	49.5% (2014、2015年度の平均)	実績値	50.3	50.4	48.5	
目標値	52.0%	達成率	100.6%	99.8%	95.1%	
備考		達成度	4	3	3	

3 事務事業評価

環境文化部 スポーツ振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	ライフステージに応じたスポーツ活動促進事業	<p>実施目的 幅広い世代の人々がライフステージに応じ、身近な地域で各自の興味、関心、競技レベルに合わせて、様々なスポーツに触れることにより、県民の健康維持・増進を図る。</p> <p>成策・課題 幼児期の取組には、延参加者数27名(スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ関係者、児童福祉関係者等)、高齢期の取組には延べ参加者数325名であった。参加者が増加するよう、実施時期の見直しや、チラシやホームページを工夫するなど、効果的な周知に努める。</p>	3
平均			3.0

4 施策達成レベル

3.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを 4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

幼児期の取組には延べ27名、高齢期の取組には延べ325名が参加し、各自のライフステージに応じて、様々なスポーツに触れることができるような機会を提供することができた。

6 今後の施策推進に向けての課題

幅広い世代の人々がスポーツに触れることができるよう、チラシ等の周知方法や実施時期は一部見直しを進め、インターネットを通じた情報提供については、閲覧件数の増加を目標に引き続き効果的な改修等を進める。

2020年度 施策評価シート(2019年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	環境文化部 文化振興課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	生きがい・元気づくり支援プログラム		
施策名	【重点】東京オリンピック・パラリンピック等を通じた地域活力の醸成		

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	内容	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	4	9	15	20
現況値	0件(2015年度)	実績値	9	22	34	
目標値	20件(4年間累計)	達成率	※225%	244.4%	226.7%	
備考		達成度	※5	5	5	

指標名	内容	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	400	800	1,200	2,000
現況値	—	実績値	226	618	981	
目標値	2,000件(4年間累計)	達成率	56.5%	77.3%	81.8%	
備考	文化の祭典でもある東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムとして、国等が認定する文化イベントの件数	達成度	2	2	3	

3 事務事業評価

	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
環境文化部 文化振興課	文化芸術アソシエイツ事業	実施目的 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、文化プログラムへの参画を促進するため、「おかやま文化芸術アソシエイツ」を設置し、文化団体等の活動を支援する。	4
		成果・課題 専門人材を配置した「おかやま文化芸術アソシエイツ」が文化団体等の相談に積極的に対応し、文化芸術団体を中から支える職員の研修会を開催した。また、「文化芸術交流実験室」(9回/2019年度)は、文化の各分野はもとより、福祉や教育、まちづくりなど様々な分野との交流を通じて文化資源を掘り起こすとともに、県内の人材や文化資源の横断的な出会いの場を創出した。	
環境文化部 文化振興課	アーティスト滞在・交流事業	実施目的 アートを活用した地域の活性化促進を図るため、国内外からアーティストを県内の地域に招へいし、地域資源を活用した短期滞在制作を行うことにより、県民が優れた芸術に触れる機会を提供するとともに、地域の魅力をアートの視点で掘り起こし発信する。	3
		成果・課題 国内外のアーティストが、地域と交流を図りながら、地域資源を活用した滞在制作を行い、その成果を公開するとともに、滞在制作に連携し、地域のアーティストや地域住民も参加した様々なイベントを実施し、5千名の来場者を得て地域の活性化や誘客促進に効果があった。今後は市町村や住民等との連携・協働をさらに進め、地域全体の盛り上がりにより一層つながるよう努める必要がある。	

事務事業名		事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
環境文化部 文化振興課	東京キャラバン in 岡山の開催	実施目的 東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラムのひとつである「東京キャラバン」を東京都等と開催し、岡山の文化の魅力を発信する。	4
		成果・課題 文化、表現のジャンルを超えたワークショップにより、創作パフォーマンスの機会に恵まれることが少ない県内パフォーマーにその機会が提供された。また観覧者1,020人、練り歩き観覧者数5,550人を数え、来場者からのアンケートにおいても、高い満足度を得ることができた。地域に優れた文化に触れる機会を提供し、文化による地域活性化に貢献できた。	

事務事業名		事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
環境文化部 スポーツ振興課	オリンピック・パラリンピアン育成事業	実施目的 東京オリンピックに、本県より一人でも多くのオリンピック選手の輩出を目指し、強化指定選手に対しオリンピック選手育成に必要な支援を多角的に行う。また、指導力の向上を図ることで、トップアスリートの育成環境を整備する。	5
		成果・課題 オリンピック・パラリンピアン育成事業において、オリンピック28名、パラリンピアン8名を指定したところ、25名が国際大会に出場し、世界を舞台に活躍した。また、19名の指導者を指定し、海外や国内のトップチーム・指導者の指導法、戦術等を学んだ。	

事務事業名		事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
環境文化部 スポーツ振興課	オリンピック等キャンプ誘致推進事業	実施目的 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、県民のスポーツへの関心が高まる中、オリンピック等の事前キャンプ誘致を実現することにより、スポーツに関する情報発信やスポーツ施設を活用した地域交流の促進と県外からの誘客による地域活性化を図る。	4
		成果・課題 キャンプ誘致については、県補助制度を活用し、市町村や関係団体等と連携して積極的に活動を行った結果、これまでに12件の事前キャンプの協定を締結したほか、34件のナショナルチーム等の県内合宿の誘致を行った。今後、オリンピック等の延期を受け、事前キャンプを締結した国や関係団体等と緊密に連携し、改めて受入準備を行う。	

平均	4.0
----	-----

4 施策達成レベル

4.0	生き活き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

東京オリンピック・パラリンピックに向け、「文化芸術アソシエイツ」による文化団体等への活動支援を通じた文化プログラムへの参画促進や、文化プログラムのリーディングプロジェクトである「東京キャラバン」を開催したほか、地域資源を活用したアーティストの滞在制作など、地域の魅力をアートの視点から発信した。オリンピック・パラリンピアン育成事業において、オリンピック28名、パラリンピアン8名を指定したところ、25名が国際大会に出場し、世界を舞台に活躍した。また、積極的なキャンプ誘致活動の結果、12件の事前キャンプが決定し、累計で34件のナショナルチーム等の県内合宿を実現した。

6 今後の施策推進に向けての課題

各種事業を通じて地元市町村や住民等との連携・協働をより一層進めるなど、さらなる地域活力の醸成に努めていく必要がある。東京オリンピックに本県から1人でも多くの選手を輩出するため、強化指定選手に対して、競技国体等と連携を図りながら、選手育成に必要な支援を多角的に行っていく必要がある。また、オリンピック等の延期を受け、事前キャンプを締結した国や関係団体等と緊密に連携し、改めて受入準備を行っていく必要がある。

2020年度 施策評価シート(2019年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	教育委員会 生涯学習課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	生きがい・元気づくり支援プログラム		
施策名	【重点】生涯学習活動の推進		

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	○公立図書館から借りた本の数	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	6.60	6.75	6.90	7.00
現況値	6.54冊(2015年度)	実績値	6.70	6.55	6.60	
目標値	7.00冊	達成率	101.5%	97%	95.7%	
備考	県民1人当たりの貸出冊数	達成度	※5	3	3	

3 事務事業評価

教育委員会 生涯学習課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	県立図書館資料整備	<p>実施目的 県立図書館は、県民からのあらゆる資料要求に応える資料蓄積の県内の最後のよりどころとして、また、市町村立図書館のサービス活動を支える資料情報センターとしての機能を果たす必要があることから、新刊図書 of 積極的収集を継続的に行うとともに、図書館未設置村地域や学校教育を支援する図書の整備を図る。</p> <p>成果・課題 平成30年度からの資料費減額に加え、令和元年度は10月からの消費税増で納品単価が高騰し、極めて厳しい状況であったが、予算の効率的な執行を目指し、効率の良い収集方法に努めた。その結果、新刊図書の収集率は前年度並みを維持し、利用状況は高い水準を維持することができた。今後も、利用者ニーズ等を踏まえつつ、県立図書館として必要な資料の収集を維持していくことが課題である。</p>	4
教育委員会 生涯学習課	生涯学習センター学習講座の開設	<p>実施目的 県民が自分に適した学習内容を選択できるように、学習講座を開設し多様な学習機会を提供する。</p> <p>成果・課題 主催講座3コースの受講者128人のうち、126人が新規入学者であった。連携講座は98機関の協力を受けて759講座で多様な学習機会を提供することができ、いくつかの講座に出向き、生涯学習大学の説明や単位取得申請を呼びかけるなどしたところ、入学者が61名であった。全体で187名の新規入学者数になり、目標を達成することができた。</p>	5
平均			4.5

4 施策達成レベル

3.3	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

近年、県内各地で図書館がリニューアルオープンし、読書環境の充実が図られており、県立図書館の利用状況も高い水準を維持している。県生涯学習センターの生涯学習大学では、公民館や大学と協力した多様な連携講座の開催や積極的な広報活動により、入学者数は増加している。また、公民館等を活用した学び直しの事業も推進し、県民に多様な学びの機会を提供し、豊かで潤いのあるくらしの創出に貢献することができた。

6 今後の施策推進に向けての課題

学習者のニーズに沿いながら、学びの成果を地域活動への参画等を通して、地域社会に還元できるよう、成果の活用に向けた取組の推進が必要である。

2020年度 施策評価シート(2019年度実績)

1 評価施策名	担当部課室	環境文化部 スポーツ振興課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造	
戦略プログラム	生きがい・元気づくり支援プログラム	
施策名	【推進】トップアスリートの育成・強化等の推進	

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

3 事務事業評価

	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
環境文化部 スポーツ振興課	オリンピック・パラリンピアン育成事業	実施目的 東京オリンピックに、本県より一人でも多くのオリンピック選手の輩出を目指し、強化指定選手に対しオリンピック選手育成に必要な支援を多角的に行う。また、指導力の向上を図ることで、トップアスリートの育成環境を整備する。	5
		成果・課題 オリンピック・パラリンピアン育成事業において、オリンピック28名、パラリンピアン8名を指定したところ、25名が国際大会に出場し、世界を舞台に活躍した。また、19名の指導者を指定し、海外や国内のトップチーム・指導者の指導法、戦術等を学んだ。	
環境文化部 スポーツ振興課	プレオリンピックレベルアップ事業	実施目的 現在実施している「オリンピック・パラリンピアン育成事業」の対象になり得る選手の育成環境を整備し、国体選手の育成・強化に加えて世界に向けた競技力向上を加速させる。	3
		成果・課題 国内トップレベルの県外強豪大学、実業団チームとその指導者を招聘し、県選抜チームが参加する形で強化練習会や強化試合を行った。本事業を通して、最新の戦術やトップレベルの技術、指導方法を学ぶことができた。今後は、県内チーム、指導者で情報を共有し、県全体のレベルアップに繋げていくことが重要である。	
平均			4.0

4 施策達成レベル

4.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

<p>「プレオリンピック育成事業」では県内の選手・指導者が、トップチーム・指導者の指導法・戦術等を学ぶことができ、「オリンピック・パラリンピアン育成事業」の対象になり得る選手等の育成環境の整備に成果をあげた。</p> <p>「オリンピック・パラリンピアン育成事業」では、強化指定選手が東京オリンピック柔道競技内定選手第1号に決定する等、成果をあげた。</p>

6 今後の施策推進に向けての課題

アスリートの育成・強化や、指導者の養成は、一朝一夕に成果が望めるものではなく、中長期的な視点で、継続的、計画的に実施することが重要である。
今後は、少子化等の影響で競技者確保に窮している競技について、テコ入れを図る必要がある。

2020年度 施策評価シート(2019年度実績)

1 評価施策名	担当部課室	県民生活部 県民生活交通課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造	
戦略プログラム	生きがい・元気づくり支援プログラム	
施策名	【推進】さまざまな分野におけるボランティア活動の支援	

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

3 事務事業評価

事務事業名		事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
県民生活部 県民生活交通課	ボランティア・NPO活動支援センター関係事業	実施目的 岡山県ボランティア・NPO活動支援センター（愛称：ゆうあいセンター）の各種事業を総合的かつ計画的に実施し、ボランティア・NPO及びコミュニティ活動を促進することを目的とする。	4
		成果・課題 同センターの運営については、指定管理者制度により、県民サービスの向上と経費縮減を図るとともに、指定管理者において、各種相談への対応や活動情報の提供、研修などを通じて、ボランティア・NPO及びコミュニティ活動の促進を支援した。	

平均	4.0
----	-----

4 施策達成レベル

4.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

ボランティア・NPO活動支援センターにおいて、指定管理者制度により、県民サービスの向上と経費縮減を図るとともに、指定管理者において、ボランティア・NPO活動を支援するための特定事業及び自主事業を効率的かつ効果的に行ったが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための施設利用自粛等の影響により、令和元年度の利用者数は目標を下回る48,782人であった。一方、利用料金収入の額は前年度を上回った。

6 今後の施策推進に向けての課題

ボランティア・NPO活動支援センターの運営や事業内容の充実に努め、ボランティア・NPOに対し効果的な情報提供、相談等を行うとともに、これらを支援する組織・団体のネットワーク化を進める必要がある。

2020年度 施策評価シート(2019年度実績)

1 評価施策名	担当部課室	県民生活部 男女共同参画青少年課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造	
戦略プログラム	生きがい・元気づくり支援プログラム	
施策名	【推進】「男女が共に輝くおかやまづくり」の推進	

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

3 事務事業評価

事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
県民生活部 男女共同参画青少年課 男女共同参画ゼミナール事業	実施目的 男女共同参画の視点を持った人材等地域リーダーを養成するとともに、男女共同参画に関する地域間格差の是正を図るため、地域リーダーのネットワークづくりを推進する。	3
	成果・課題 市町村や関係団体の職員も受講し、いずれの講座も満足度が高かった。地域団体や企業など受講者の裾野を広げていくことや修了者のフォローアップが課題である。	

事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
県民生活部 男女共同参画青少年課 ウィズカレッジ事業	実施目的 男女共同参画社会の形成に向け、男女が社会の対等なパートナーとして仕事と生活を調和させ、さまざまな活動に共に参画できるよう、啓発・意識改革を推進する。	3
	成果・課題 県民向け講座は、市町村との共催講座を重点的に実施し、幅広い層の参加があった。また出前講座は、教育、福祉関係者等県内各地のさまざまな団体の利用があった。外部委託により民間企画力を活用したことから、全体的に若年層の参加率が上昇した。引き続き若者や男性の参加率向上に努める必要がある。	

事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
県民生活部 男女共同参画青少年課 DV対策	実施目的 県民に対しDVへの認識を深め、男女間のあらゆる暴力を許さない社会づくりに向けた一層の意識啓発と、DV被害者の自立に向けて、民間との協働によるさまざまな支援を行う。	3
	成果・課題 未策定の市町村に対して計画の策定の働きかけを行った。民間団体と協力してDV被害者の休日電話相談、自立支援等事業を実施した。DV防止啓発のため、児童虐待対策との連携など情報を更新するなどし、わかりやすいパネルを作成した。	

平均	3.0
----	-----

4 施策達成レベル

3.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

ウィズセンターの男女共同参画社会実現に向けた各種講座を通じて、性別による固定的な役割分担意識をなくすなど、男女共同参画の一層の意識啓発を進めるとともに、男女間の暴力を許さない社会づくりに向けた啓発や被害者の支援に取り組んだ。

6 今後の施策推進に向けての課題

引き続き、男女共同参画社会の実現に向けた講座を開催し、意識啓発を進める必要がある。また、男女間の暴力の根絶に向け、関係機関と連携し、啓発や被害者支援に取り組む必要がある。

2020年度 施策評価シート(2019年度実績)

1 評価施策名	担当部課室 環境文化部 文化振興課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	生きがい・元気づくり支援プログラム
施策名	【推進】文化創造活動の振興

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

3 事務事業評価

事務事業名		事務事業の実施目的及び成果・課題		事務事業総合評価
環境文化部 文化振興課	普及教育事業費	実施目的	県立美術館の作品に触れる機会を増やし、県民の文化鑑賞と体験機会の充実を図り、文化力の向上に努める。	3
		成果・課題	美術館講座や講演会、フロアレクチャー、ワークショップ等を実施することにより、県立美術館に訪れ、作品に触れる機会を増やすなど、多彩なアプローチを実施した。	
環境文化部 文化振興課	県立美術館魅力UP事業	実施目的	県立美術館の入館者数は近年減少が続く、入館者、特に若い世代への来館を促進する取組が必要であるため、美術館の魅力の発信や県民・観光客への広報の充実、きめ細かいサービスの提供等により、常設展をはじめ美術館自体の魅力向上を図り集客につなげる。	3
		成果・課題	魅力発信スタッフを活用することにより、美術館ホームページのリニューアルや、SNSを通じて若者に向けた情報発信を強化することができた。また、多様な観覧者のために託児サービスの提供や、特別展のフロアレクチャー等で手話通訳による観覧も行った。	
平均				3.0

4 施策達成レベル

3.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

美術館ならではの学びができる各種プログラムを企画、実施し、多くの県民の方々に対して、「つくる」活動、「みる」活動など、文化体験の機会を提供することにより、作品や美術に対する理解を深め、美術館に親しんでもらうことができた。

6 今後の施策推進に向けての課題

若い世代への美術館教育について、学校と美術館が恒常的に連携していくことが必要であり、教育ツールとしての美術館活動につなげることが重要である。さらに今後は、新型コロナウイルス感染防止の対策を取りながら、県民の来館の機会を増やすため、より展示内容や関連事業の充実を図るとともに、情報とサービスの積極的な提供を行い、魅力ある美術館づくりに取り組む。

2020年度 施策評価シート(2019年度実績)

1 評価施策名	担当部課室 保健福祉部 長寿社会課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	生きがい・元気づくり支援プログラム
施策名	【推進】高齢者の生きがいづくりと社会参加活動の促進

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

3 事務事業評価

事務事業名		事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
保健福祉部 長寿社会課	老人クラブ活動等 社会活動促進事業	実施目的 高齢者が生きがいを持って活躍するよう、老人クラブが行う社会奉仕活動や健康づくりのための事業などを支援する。	4
		成果・課題 岡山市、倉敷市を除く25市町村の単位クラブや市町村老人クラブ連合会、県老人クラブ連合会が行う子育て支援活動や健康づくり事業などに要する経費を助成し、活動の活性化を図った。今後とも、高齢者の生きがいづくりや社会参加を促進するため、支援を行っていく必要がある。	

平均	4.0
----	-----

4 施策達成レベル

4.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

見守り・子育て支援活動などの社会貢献や健康ウォーキングや介護予防などの健康づくりに主体的に取り組む老人クラブへの活動支援を行うことにより、高齢者の生きがいづくりと社会参加活動の推進を図った。

6 今後の施策推進に向けての課題

高齢者の生きがいづくりと社会参加活動を一層促進していくため、これらの活動に主体的に取り組む老人クラブの支援を通じ、クラブの魅力アップに取り組むとともに、市町村等と連携しながら、クラブの活動内容の周知を図っていく必要がある。

2020年度 施策評価シート(2019年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	県民生活部 人権施策推進課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	生きがい・元気づくり支援プログラム		
施策名	【推進】人権尊重の社会づくりの推進		

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

3 事務事業評価

	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
教育委員会 人権教育課	人権教育指導者養成講座	実施目的 様々な人権問題の解決に向けて、人権問題相互の関連を図り、自らの課題として日常生活の中に生かせる人権感覚を身に付けるための教育・啓発活動を一層推進するため、深い認識と実践力をもった指導者の養成を行う。	4
		成果・課題 人権教育・啓発の中心となる指導者を養成し、さらに修了者を対象にしたスキルアップ講座を実施した。講座Ⅰについては募集チラシを工夫したり市町村教委の担当者に個別に連絡したりと周知の方法を工夫したことにより受講者が増えた。人権教育・啓発指導者講座Ⅰ：4回、25人修了。人権教育・啓発指導者講座Ⅱ：1回、22人受講。講座Ⅱの受講者数を増やすための工夫が必要である。	
県民生活部 人権施策推進課	人権啓発研修事業	実施目的 人権についての正しい理解と認識を深めるために、各種人権研修を実施する。	3
		成果・課題 県が開催し、又は企業・団体等の開催を県が支援した人権研修会を6,864人の県職員及び県民等が受講しており、人権についての正しい理解と認識を深めることができた。今後も体系的な人権研修を実施する。	
平均			3.5

4 施策達成レベル

3.5	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

<p>多くの方に人権についての正しい理解と認識を深めることができた。</p>
--

6 今後の施策推進に向けての課題

より多くの方が各種人権研修を受講するよう啓発等に努める必要がある。

2020年度 施策評価シート(2019年度実績)

1 評価施策名	担当部課室	土木部 道路整備課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造	
戦略プログラム	生きがい・元気づくり支援プログラム	
施策名	【推進】おかやまアダプトの推進	

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

3 事務事業評価

	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
土木部 道路整備課	おかやまアダプト 推進事業	実施目的 住民グループ等と県・市町村との協働の下で、道路、河川、海岸及び公園の環境美化を推進することにより、美しい公共空間の創造や環境保全意識の高揚を図る。	4
		成果・課題 多くの方の参加を得て、地域の共有財産である道路、河川、海岸及び公園への愛着心が深まるとともに、公共施設利用者のマナー向上が図られている。構成員の高齢化や人数の不足等により活動を終了する団体が増えており、今後もこの状況は続くと思込まれることから、事業が持続可能なものとなるよう対応を検討する必要がある。	

平均	4.0
----	-----

4 施策達成レベル

4.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

おかやまアダプト推進事業を通じ、地域の共有財産である道路、河川、海岸及び公園（公共施設等）の清掃美化活動に取り組む県民は、近年やや減少傾向にあるものの、新たに参加する県民もいることから、公共施設等への愛着心を深めるとともに、公共施設利用者のマナー向上が図られている。

6 今後の施策推進に向けての課題

構成員の高齢化や人数の不足により活動を終了する団体が増えており、今後もこの状況は続くと思込まれることから、事業が持続可能なものとなるよう対応を検討する必要がある。